

岩木山りんご生産出荷組合

「葉とらずGAP」取得



「葉とらずGAP」の第三者認証書を手にする木村代表

栽培管理にお墨付き

弘前

弘前市の農業生産法人・岩木山りんご生産出荷組合(木村図代表)が、りんご生産に特化した品質管理の第三者認証「葉とらずGAP」を取得し、2017年産から同GAPに基づいた栽培に取り組み。葉とらずりんごの栽培管理を第三者に評価してもらうことで、全面での信用を高めるとともに、生産者の栽培意識向上につなげる。

(秋元宏宣)

葉とらず栽培は、葉を残すことで光合成を活発にし果実への養分伝達を促進させる方法。作業の効率化対策として取り組みが広がっているが、葉を取らないため着色は重視しておらず、着色不良果が「葉とらずりんご」として販売される懸念があった。この問題を解消しようと同組合は、青果物の安全管理を徹底したGAPに準じた手法で生産管理に乗り出すことにした。葉とらずGAPではチェック項目をりんご栽培に必要な9項目に特化。毎日の作業記録、園地管理、施肥の記録、農薬散布記録など

のチェック項目ごとに必要な管理のポイントと評価基準が設けられている。

第三者認証機関は北海道有機認証センター(札幌市)で、同組合は昨年12月に取得した。有効期間は18年12月まで。

同組合は現在、約1000人の組合加入者に説明会を開き参加者を募集中。木村代表は、青果物の安全性にお墨付きを与える第三者認証は取引拡大の必死項目と強調し「葉とらずりんごが消費者の信頼を得るためにも産地全体に広げたい」と話した。